

(算数科)

「思考力・判断力・表現力」を育てる問題提示や発問の工夫
～数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びをめざす～

大阪市立放出小学校 研修部

1. 研究主題設定の理由

本校では、令和3年度は「基礎的・基本的な知識・技能の定着をはかる算数の指導法の研究～できる、わかるという喜びのある授業をめざして～」という研究主題のもと研究をすすめてきた、その結果、大阪市の経年調査で「知識・技能」で大阪市の平均を上回る結果となった。

令和4年度は、「思考力・判断力・表現力を育てる問題提示や発問の工夫～数学的活動を通して～」を研究主題として研究を進めてきた。その結果、大阪の市経年調査では、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも平均を上回るか、平均とほぼ同じくらいまで伸びみられた。「主体的に取り組む態度」では、大阪市平均と同じくらいの結果が出たため、令和5年度は、「思考力・判断力・表現力」を育てる問題提示や発問の工夫～数学的活動を通して、主体的・対話的で深い学びをめざす～」という研究主題を設定し、研究を進めてきた。

2. 研究の趣旨

「思考力・判断力・表現力」を育てるとは、子どもの表面的な動きや子どもの出す結果だけにとらわれないで、結果にたどりつくプロセスや子どもの内面に目を向けるという意味をもつと考える。たとえ結果は間違っていたとしても、どのように考えたのかを真剣にみんなで聞き、理解し、対話を通して、見方、考え方を深めることが重要である。

「わかる・できる楽しさ、考える楽しさ、話し合う楽しさ」など、児童が意欲的に学習に取り組む姿を大切にしながら、子ども自らが動き出し、夢中になって取り組む算数授業を作ること、で、「主体的・対話的で深い学び」をめざして研究を進めた。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点①	子どもの問いを引き出す問題提示や発問を工夫する
-----	-------------------------

授業では、教師が何らかの工夫をすることによって、目標に沿った子どもの姿を引き出すことが大切である。主体的な学びのきっかけは、子どもが感じる問いである。主体的な学びのきっかけは、子どもが感じる問いである。一部の子どもが感じた問いを「〇〇と言っている友だちがいます。その気持ちはわかるかな」と投げかけることで、その子の問いが学級全体へと増幅していく。授業のどこかで子供に問いをもたせることが、主体的な学びを引き出すことにつながると考える。

視点②	子どもが自ら考えたいくなるように授業を工夫する
-----	-------------------------

子どもが自ら考えたいくなるように授業を工夫する第一歩は、教師が教材や子どもに対して理解を深め、指導するための努力をすることである。「何をねらいにするか」「どのように教えるか」を一人ひとりの教師がじっくり考えることが大切になる。そういう作業を繰り返すことで、「子どもが自ら考えたいくなる」授業ができると考える。

視点③	観点に応じた適切な評価方法を選択する
-----	--------------------

Ⅰ 時間の指導では、「思考力・判断力・表現力」を評価する。そして、各時間における評価については、Ⅰ時間の授業の中でどの場面（評価場面）で、どんな児童の姿が見られれば、「おおむね満足できる」状況と評価するのか、また、その評価資料どんな方法（評価方法）で収集するのか計画しておく。

視点④	教師の授業力を鍛える
-----	------------

教師の授業力を鍛えるためには、模擬授業をしてお互いに相互批評することが大事だと考えた。そのために、指導案検討会では、本時の場面について模擬授業を行う事とした。

4. 研究の成果と今後の課題

（Ⅰ）研究の成果

子どもの問いを引き出す問題提示や発問を工夫する。

・教材研究に時間をかけて児童の問いを引き出す発問を考えることにより、児童が「考えたい」「考えてみよう」と意欲的に取り組むことができていた。発問を工夫することが、児童の学習への意欲につながっている。

・教員が教材研究を深めることで、より効果的な学習となり、児童の考える力を高めることができた。

子どもたちが自ら考えたいようになるように授業を工夫する

・「出会う」場面で、児童の「なぜ」「どういうこと」「解いてみたい」という学習意欲を高めることで、課題の解決に向かう姿勢や、考える場面での深まりが感じられた。

観点に応じた適切な評価方法を選択する

・評価の観点を「思考力・判断力・表現力」を中心に研究を進めたため、学校として伸ばしたい児童の力が明確になり、授業を組み立てるときの一助になった。

教員の授業力を鍛える

・模擬授業をすることで、授業者が自分の授業を振り返ることができた。また、授業の流れや展開がわかり、指導案の兼用に役立てることができた。

・授業のわかりにくいところや児童が困るところがわかり、授業を修正することができた。

（Ⅱ）今後の課題

・振り返りの方法が統一されていなかったなので、振り返りの書き方や型などイメージできるものを年度当初に示す必要がある。

・児童が自分の考えを持つためには、全体交流の前に、個人で思考する時間を十分に確保する必要がある。

・評価の場面や方法を精選する。

・評価の方法について検討を深め、今後も研究を進めていく。

・問題提示や発問について、どのように工夫するか、今後も研究を進めていく。